

音楽科学習指導案

生徒 第2学年C組 男子19名 女子20名 計39名
指導者 教諭 嶋田 歩

I 題材名 『総合芸術の魅力を味わう』 ～交流を通して聴き深めよう～

II 題材について

本題材では、総合芸術である「オペラ」を取り上げ、[共通事項]を窓口に、オペラの音楽の特徴を知覚・感受しながら、思考・判断し、表現する一連の学習過程として、オペラの一部を創意工夫して音楽表現する活動や、解釈し、自分にとってのオペラの価値を考えて鑑賞する活動を通して、総合芸術であるオペラのよさや美しさを味わわせていく。具体的には、オペラ「アイダ」の2幕2場のレチタティーヴォの部分等の表現を通して、新学習指導要領の「A表現」の指導事項「ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。」と「イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。」の学習に取り組ませる。また、2幕2場の最後の部分の鑑賞を通して、「B鑑賞」の指導事項「ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」と「イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。」の学習に取り組ませる。ここでは、[共通事項]の音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱等を支えにしながら扱い、音楽表現と鑑賞の両面から学習を展開させていくことによって、総合芸術であるオペラの魅力を味わわせた

III 題材の指導目標

オペラに関心をもち、オペラの音楽の特徴を知覚・感受しながら、それぞれの役にふさわしい歌い方を創意工夫して追求する活動や、解釈し、自分にとってのオペラの価値を考えて鑑賞する活動を通して、オペラのよさや美しさを味わわせる。

IV 本題材における言語活動

- ・体験（練習・演奏）を通して感じ取った、オペラにふさわしい声の特徴や音楽表現について、他者に音楽に関する言葉を用いて伝え、交流する。【感受・表現】
- ・批評文の交流時に、自分なりに解釈したオペラの音楽のよさや美しさについて、他者に音楽に関する言葉を用いて伝える。【感受・表現】

V 題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none">・オペラの音楽に関心をもち、オペラにふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(歌唱)・オペラのよさや美しさを理解し、味わって鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。(鑑賞)	<ul style="list-style-type: none">・オペラの音楽の特質や雰囲気を知覚・感受しながら、発声や言葉の特性を理解するなどして、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	<ul style="list-style-type: none">・オペラにふさわしい声や言葉の特性を生かした歌い方をするために必要な、発声、言葉の発音などの技能を身に付けて歌っている。	<ul style="list-style-type: none">・オペラにおける音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解し、解釈したり価値を考えたりし、根拠をもって批評するなどして、オペラのよさや美しさを味わって聴いている。

VI 指導と評価の計画 (5時間扱い・・・本時5/5)

月	題材	指導目標	主な学習活動	【言語活動系統表】との関連
10 (5)	総合芸術の魅力を味わう～交流を通して聴き深めよう～	<p>①オペラの音楽に関心をもち、オペラにふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組ませる。(歌唱)</p> <p>②オペラの音楽の特質や雰囲気を知覚・感受しながら、発声や言葉の特性を理解するなどして、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもたせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オペラ「アイーダ」2幕2場から一部分を視聴し、オペラの「音楽の特徴」や「音楽以外の特徴」について知覚・感受したことを整理する。 ・オペラ「アイーダ」2幕2場から、独唱の部分、重唱の部分、合唱の部分を聴き、それぞれからオペラの声の特徴や歌い方等を感じ取り、話し合う。 ・オペラ「アイーダ」の大まかなあらすじを知る。 ・担当の役(登場人物)を決め、それぞれの役の心情などを考えながら、ふさわしい歌い方をグループごとに追求する。 	3
		<p>③オペラにふさわしい声や言葉の特性を生かした歌い方をするために必要な、発声、言葉の発音等の技能を身に付けて歌わせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当した役のグループごとに、創意工夫したところを発表し、演奏交流する。 ・交流を通して、自分の取り組んだことを基に、オペラの音楽の特徴や音楽表現について、相手に音楽に関する言葉を用いて伝える。 	
		<p>④オペラのおよさや美しさを理解し、味わって鑑賞する学習に主体的に取り組ませる。(鑑賞)</p> <p>⑤オペラにおける音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解し、解釈したり、自分にとっての価値を考えたりし、根拠をもって批評するなどして、オペラのおよさや美しさを味わって聴かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オペラ「アイーダ」の2幕2場(レチタティーヴォの部分～)を鑑賞する。 ・オペラのおよさや美しさを自分なりにまとめ、批評の交流をする。 ・オペラ「アイーダ」の2幕2場(最後の部分)を味わって鑑賞する。 	1 本時

【感受・表現】

観点	指導目標	評価方法	Aのキーワード・具体例	評価規準	Cへの手立て
音楽への関心・意欲・態度	①④	ワークシート 観察	オペラの「音楽の特徴」, 「音楽以外の特徴」のいずれの欄についても <u>自分なりに感じ取ったことを具体的に書いている。</u> オペラのよさや美しさについて、 <u>他者の発言を集中して聞き、他者に質問したり、自分との共通点や相違点を述べる</u> などして、交流を深めようとしている。	大まかに、オペラの「音楽の特徴」として、オーケストラや歌唱表現について書いている。また、「音楽以外の特徴」として、他の芸術の要素について書いている。 オペラのよさや美しさについて、他者の発言を聞き、他者からの質問に答えようとしている。	生徒に感じ取ったこと、考えたことを問いかけ、自信をもって書いたり、発言できるような雰囲気をつくり、学習内容に対する意識を高める。
音楽表現の創意工夫	②	観察 ワークシート	オペラの発声、言葉の特性などの知覚・感受を基にしながら、どのような声や言葉の表現をして歌うかの思いや意図についての <u>自分の考えを明確に</u> まとめている。	オペラの発声や言葉の特性の知覚・感受を基にしながら、どのような声や言葉の表現をして歌うかの思いや意図をまとめている。	自分の担当する役(登場人物)の役柄や心情を想像させ、どんな発声や言葉の表現でうたえばよいかを考えさせる。
音楽表現の技能	③	教師用チェック リスト	オペラにふさわしい、 <u>しっかりと響きのある声や言葉の特性を生かした豊かな</u> 歌い方をするために必要な発声、言葉の発音などの技能を身に付けている。	オペラにふさわしい声や言葉の特性を生かした歌い方をするために必要な、発声、言葉の発音などの技能を身に付けて歌っている。	特につまづきが見られる生徒には、教師が実際に歌ってみせることで、わかりやすく発声、言葉の発音などを感じ取れるようにする。
鑑賞の能力	⑤	観察 ワークシート	オペラのよさや美しさを、オペラにおける音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、 <u>適切な言葉を用いて、自分なりの根拠をもって、具体的に批評文に</u> まとめている。	オペラのよさや美しさを、オペラにおける音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、解釈したり価値を考えたりして批評文にまとめている。	今までの学習を振り返らせて、オペラの美しさやよさについて、題材の学習全体の中から記述する内容の手掛かりが得られるようにする。

Ⅶ 生徒の実態について

本学級の生徒は、鑑賞活動時における発話等も積極的で、自分なりの考えを述べることができる生徒が多い。また、表現活動においても、どのように表すかについて自分なりの思いや意図をもって音楽表現の創意工夫に取り組もうとする生徒が多いなど、音楽への関心・意欲・態度が高い。総合芸術である「オペラ」を学習するのは、本題材が初めてとなる。本題材の関連として2年時に取り組んだ鑑賞領域としては、「展覧会の絵」(ムソルグスキー作曲)を教材曲に、絵画のイメージとともに、音楽を形づくっている要素等を知覚・感受させながら原曲(ピアノ)とラヴェル編とストコフスキー編のオーケストラレーションとの比較等を関連させながら多様な音楽表現について学習した、題材「絵画と音楽」がある。

総合芸術にかかわる今後の関連としては、3年時に、我が国の伝統的な舞台芸能である「能」「歌舞伎」「文楽」について学習していく。また、表現領域（歌唱）に関しては、2年時に、題材「混声合唱の高まり」で、混声合唱曲「心の瞳」、「君とみた海」を教材に、〔共通事項〕を学習の支えとして、歌詞の内容や曲想、混声合唱にふさわしい発声と言葉の特性、声部の役割や全体の響きについて、それぞれ表現を工夫して歌う学習に意欲的に取り組んだ。

Ⅷ 本時案

1 題材 「総合芸術の魅力を味わう」～交流を通して聴き深める～

2 学習目標

- ・オペラのよさや美しさを理解し、味わって鑑賞する学習に主体的に取り組ませる。

【音楽への関心・意欲・態度】

- ・オペラにおける音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解し、解釈したり、自分にとっての価値を考えたりし、根拠をもって批評するなどして、オペラのよさや美しさを味わって聴かせる。

【鑑賞の能力】

3 学習の展開

○学習活動	○教師のかかわりと◆留意点	○評価規準と（評価方法）
<p>○オペラ「アイダ」より、2幕2場の一部分を全員で歌う。</p> <p>○前時までの学習内容を振り返る。</p> <p>○本時の学習目標を把握する。</p>	<p>○前時まで取り組んできた部分を歌わせ、意欲を喚起させる。</p> <p>◆発声、言葉の発音、音の重なり、バランスに気を付けさせる。</p> <p>○Music check sheet(以下、MCシート)等をもとに、前時までの自分の学習を振り返らせる。</p> <p>○本時の学習目標を提示し、本時の学習の見通しをもたせる。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">オペラの魅力(よさや美しさ)を味わって鑑賞しよう!!</div>		
<p>○MCシートに目標を記入する。</p>	<p>○目標はできるだけ具体的に記入するように指示する。</p>	
<p>○オペラ「アイダ」2幕2場のレチタティーヴォの部分～を鑑賞する。</p> <p>○自分の担当した「役」についての批評を通して、感受したオペラのよさや美しさを相手に伝える。</p> <p>○交流した内容を参考にして、まとめの鑑賞(2幕2場の最後の部分)をする。</p> <p>○まとめの鑑賞を基に、オペラのよさや美しさ、自分にとってのオペラの価値を考える。</p>	<p>○自分の担当した「役」の表現を中心に鑑賞させる。</p> <p>○鑑賞した場面における自分の感受したオペラのよさや美しさについて根拠をもって批評及び交流させる。</p> <p>◆「役」ごとに、内容を整理する。</p> <p>○交流で得られた内容を確認してから鑑賞させる。</p> <p>○まとめの鑑賞から、オペラのよさや美しさ、自分にとっての価値を考えさせる。</p>	<p>○オペラのよさや美しさについて、他者の発言を聞き、他者からの質問に答えようとしている。</p> <p>【音楽への関心・意欲・態度】(観察)</p> <p>○オペラのよさや美しさを、オペラにおける音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、解釈したり価値を考えたりして批評文にまとめている。</p> <p>【鑑賞の能力】(観察・ワークシート)</p>
<p>○自己評価をし、本時のまとめをする。</p>	<p>○MCシートに本時の学習の振り返りを記入させる。</p>	